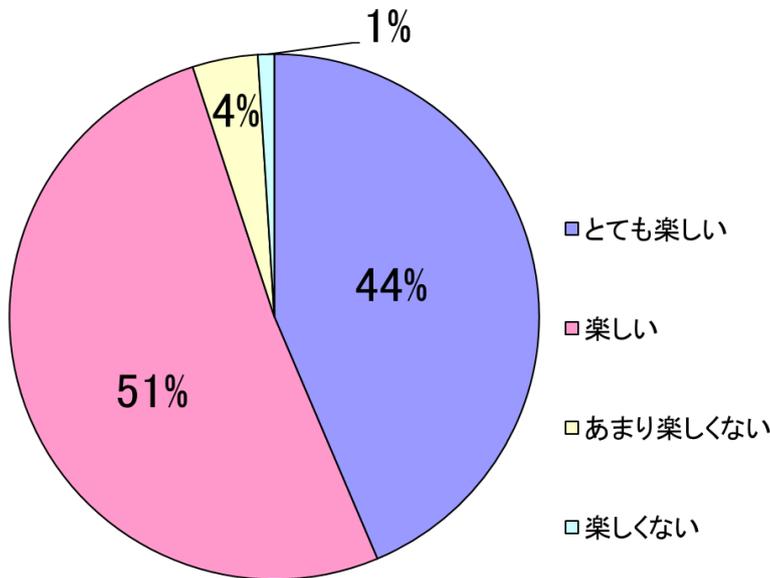


令和6年度前期（10月実施） 高学年児童分析

1. 学校生活は楽しいですか。



1. 学校生活は楽しいですか。

【令和6年度10月】

とても楽しい 44%
楽しい 51% } 95%

【令和5年度10月】

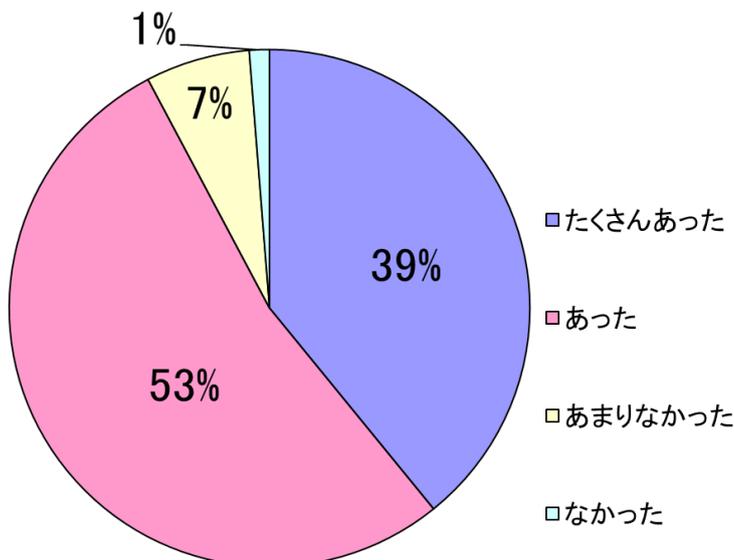
とても楽しい 52%
楽しい 41% } 93%

2% up

「とても楽しい」「楽しい」と回答した児童は合わせて95%で、昨年度より2%増加した。とても多くの児童が学校生活を楽しむことができていると読み取ることができる。ただ、最上位回答の「とても楽しい」においては8%の減少が見られた。

児童が安心して学校生活を送り、さまざまな場面で「楽しい」と感じることができるよう、引き続き児童一人一人が自分の力を発揮し、輝ける場を設定するなど、場面に応じた支援をしていく必要がある。また、児童が悩んだり困ったりしている場合は、まず学級担任や学年担任が迅速に対応し、必要に応じて支援教育コーディネーターとも連携して、早急に解決することができるような体制を整えるように努めていく。

2. クラスの当番・係活動・委員会・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものはありましたか。



2. クラスの当番・係活動・委員会・実行委員などの活動の中で、自分の役割に進んで取り組むことができたものはありましたか。

【令和6年度10月】

たくさんあった 39%
あった 53% } 92%

【令和5年度10月】

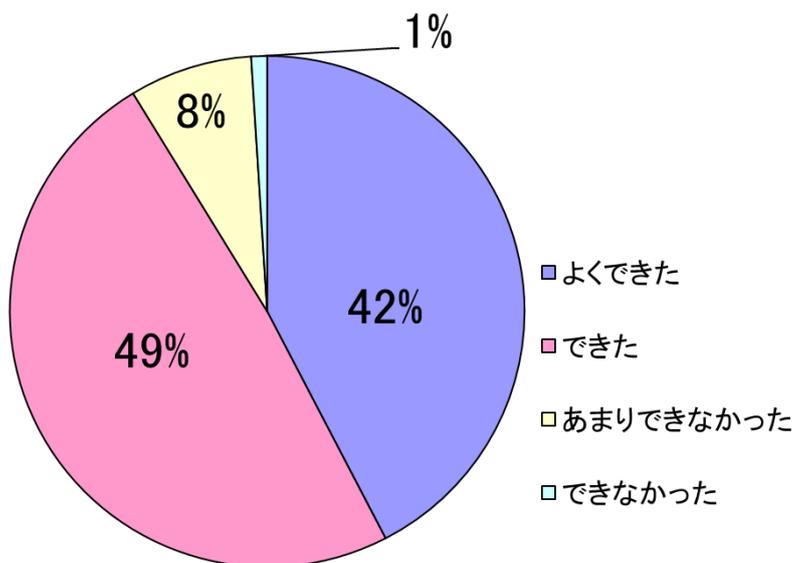
たくさんあった 43%
あった 51% } 94%

2% down

「たくさんあった」「あった」と回答した児童を合わせると92%で、昨年度より2%減少したものの、ほぼ同じ割合となった。

高学年においては、自分たちで活動内容を考え、企画・運営していく機会が多くなる。また、実行委員や委員会活動においては、活動を行う対象が学年や学校全体であることが多く、より大きな規模の活動となる。これらの活動において児童が進んで取り組むようにするためには、それぞれが担う活動の内容を常に振り返り、その取り組みが有効・有益なものであるかを児童自身が考えることができるような指導・支援が必要である。学級における当番や係活動であれば学級担任が、実行委員であれば学年担任が、委員会活動であれば担当教員が、児童が自主的に取り組むことができるような活動内容を児童と共に考え、常に改善する意識をもつことが必要である。

3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか。



3. 自分や周りの人たちの健康に気を付けて生活することができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 42%
できた 49% } 91% ↑ 1% up

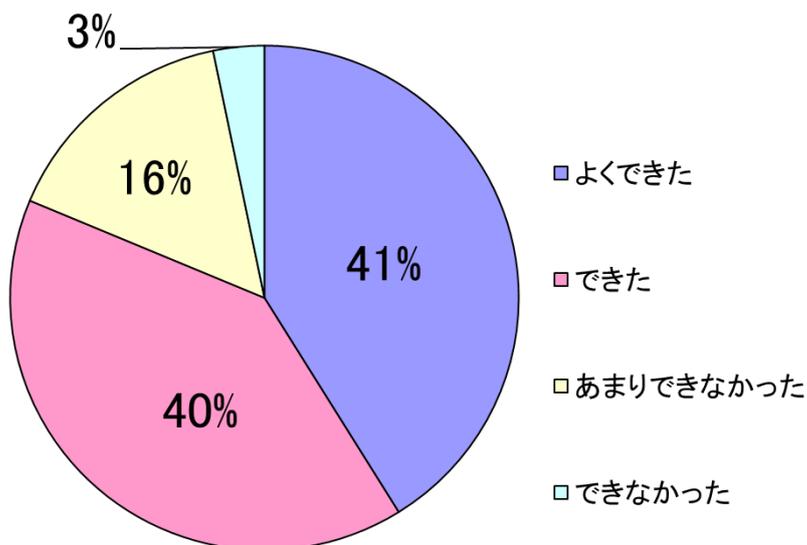
【令和5年度10月】

よくできた 40%
できた 50% } 90%

「よくできた」「できた」と回答した児童は90%で、昨年度より1%増加した。

コロナ禍の対応はなくなり、以前の生活に戻った。しかし、当然のことであるが、今後もさまざまな病気に対する予防を実践していく必要がある。日頃から手洗いやうがいをしっかり行うことや、バランスのとれた食事、適度な運動、睡眠時間の確保など、健康に過ごすために必要なことを引き続き指導していく必要がある。また、児童だけでなく保護者にも家庭でできること（歯磨きや早寝早起きなど）への協力を呼びかけていきたい。

4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか。



4. 体育の学習や休み時間、放課後には、体をいっぱい動かしたり、できないことに挑戦したりすることができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 41%
できた 40% } 81% ↓ 5% down

【令和5年度10月】

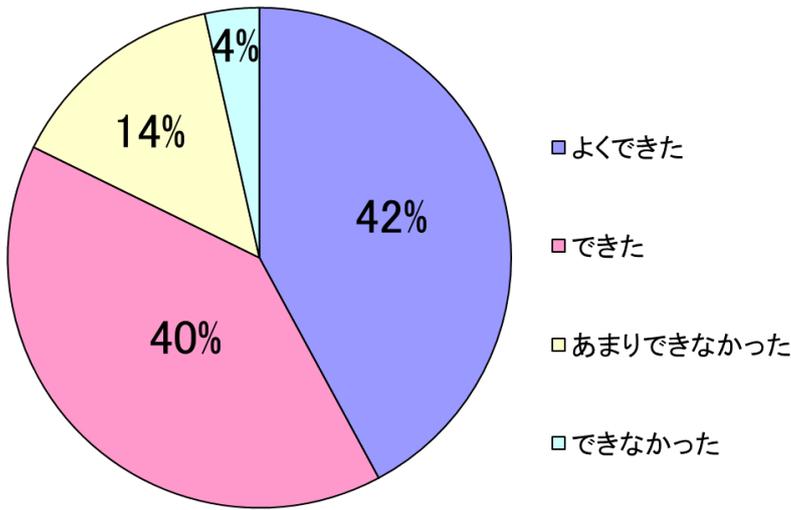
よくできた 47%
できた 39% } 86%

「よくできた」「できた」と回答した児童の割合は81%で、昨年度より5%減少した。

体育の学習においては、児童が楽しく体を動かしながら学習に取り組むことができるように、各学年で教材研究を行ったり、場の準備をしたりしている。授業中は児童が楽しそうに活動したり、真剣な表情で取り組んだりしている様子を見ることができる。今後も引き続き研究・研修を行い、児童がより楽しく運動に親しんだり、できないことに挑戦したりすることができるよう努めていく。

昨年度と同じく、今年も夏の暑さのために運動ができない時期が長く続いた。これに関してはどうすることもできないのが現状ではあるが、児童の安全を確保したうえで、思い切り体を動かし、心地よさを感じることができるような環境整備についても取り組んでいく必要がある。

5. 進んで挨拶することができましたか。



5. 進んで挨拶することができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 42%
 できた 40% } 82%
 ↓ 4% down

【令和5年度10月】

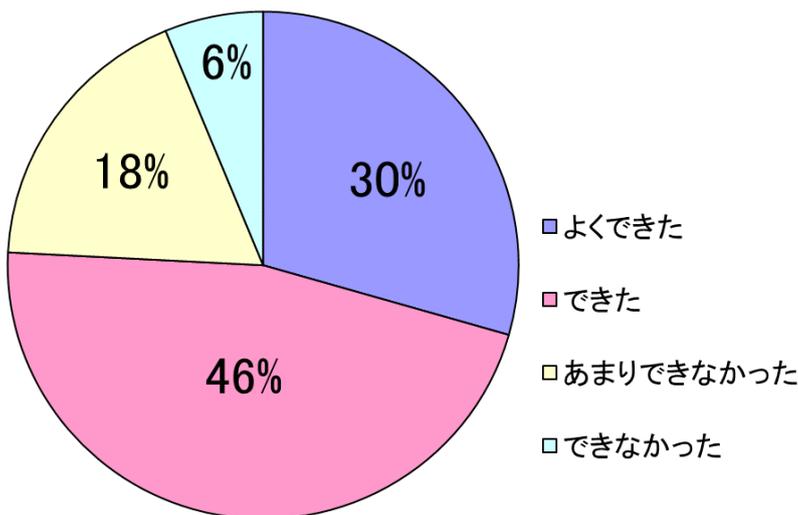
よくできた 45%
 できた 41% } 86%

「よくできた」「できた」と回答した児童の割合は84%で、昨年度より4%減少した。

数値としては減少したものの、児童の実態としては挨拶ができなくなったということはなく、これまでと同じように自分から挨拶することができる児童が多く、自分からではなくてもこちらが挨拶をすると返すことができる児童がほとんどである。また、高学年の児童が進んで挨拶をすることで、低学年にもその習慣が浸透していると感じる場面も多くある。

今後も挨拶の必要性や、挨拶することのメリットなどを学校全体で児童に伝えていくとともに、教職員が率先して挨拶を実践することで、「よくできた」と回答する児童の割合がさらに増えることをめざしていきたい。

6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか。



6. 困ったり悩んだりすることがある場合は、先生や周りの友達に相談することができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 30%
 できた 46% } 76%
 ↓ 3% up

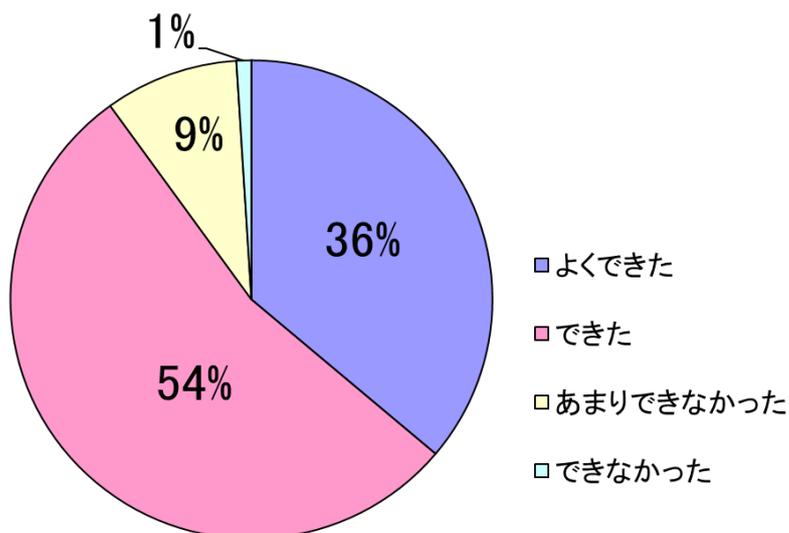
【令和5年度10月】

よくできた 29%
 できた 44% } 73%

「よくできた」「できた」と回答した児童の割合は73%で、昨年度より3%増加した。

高学年においては、低学年よりも困ったり悩んだりする場面が多い傾向にある。その原因は友達関係であったり、学習に関することであったり、さまざまである。また、高学年になるほどその内容が複雑になる傾向もある。児童が学校生活においてこのような状況になった時、まず教師がその様子の変化に気付くことが重要である。少しの変化も見逃さず、教師から児童に声をかけることによって、児童は「自分のことを見てくれている」と感じると思われる。これを繰り返すことで、児童にとって教師が「相談できる相手」となるようにしていきたい。また、道徳の学習や共生*共育プログラム、「SOSの出し方・受け止め方教育」などを活用し、児童相互においても悩みを共有したり相談したりし合える雰囲気づくりに努めていく。

7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか。



7. 学校のルールを守り、周りの人のことを考えて行動することができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 36% } 90%

できた 54%

【令和5年度10月】

よくできた 42% } 91%

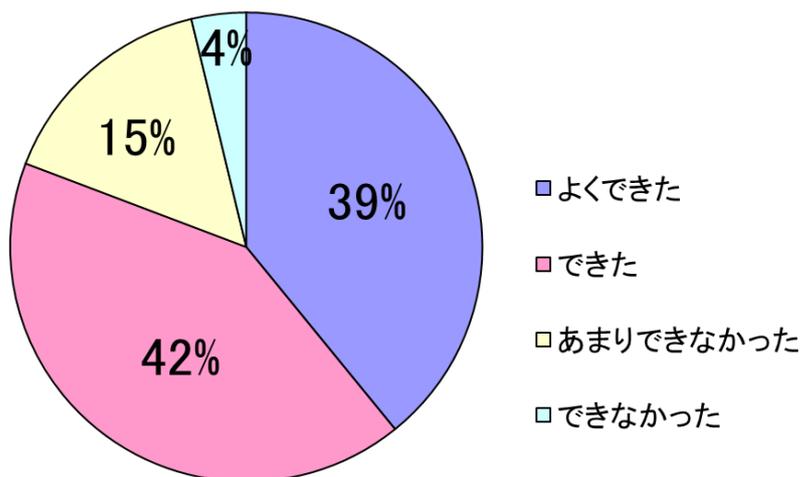
できた 49%

1% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は90%で、昨年度より1%減少したものの、ほぼ同じ割合となった。多くの児童が学校のルールを意識し、それを守ろうと心がけていると考えることができる。

今年度も「柿生小スタンダード」を軸として、全員が共通理解の下で学校生活を送ることができるように指導にあたっている。高学年がルールを守る姿勢を見せることで、低学年にも波及している様子が見えてくる。今後も児童支援チームを中心として、さまざまな場面においてルールの必要性について投げかけ、児童自身が考えながら、ルールを守ることの心地よさを感じることができるよう指導の工夫を模索していく。

8. 困っている友達や、悩んでいる友達が周りにはいる時には、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか。



8. 困っている友達や、悩んでいる友達がいる時には、話を聞いてあげたり、周りの大人に伝えたりすることができましたか

【令和6年度10月】

よくできた 39% } 81%

できた 42%

【令和5年度10月】

よくできた 39% } 83%

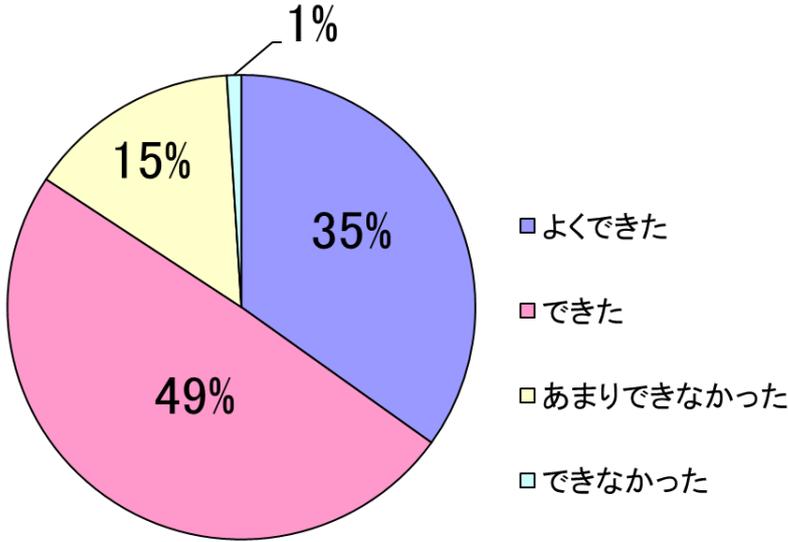
できた 44%

2% down

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は81%で、昨年度より2%減少したものの、ほぼ同じ割合となった。

悩んだり困ったりしている友達に声をかけることは、人によっては勇気のいることかもしれない。しかし、声はかけなくても、まずその様子に気付いてあげることが友達を助けることに繋がるという意識を浸透させていきたい。そのためには、「SOS の出し方・受け止め方」や、共生*共育プログラム、道徳の学習などを活用して、悩んだり困ったりしている友達への対応の仕方について指導していく必要がある。また、教師が日常的に児童の様子を観察し、悩んだり困ったりしている児童に対して積極的に声をかける姿勢を示すことで、それが児童間にも広がっていくように努めていく。

9. 学習では、自分の課題をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか。



9. 学習では、自分の課題をもち、最後まであきらめずに取り組んだり、苦手なことやできないことにも挑戦したりすることができましたか

【令和6年度10月】

よくできた	35%	84%	←
できた	49%		

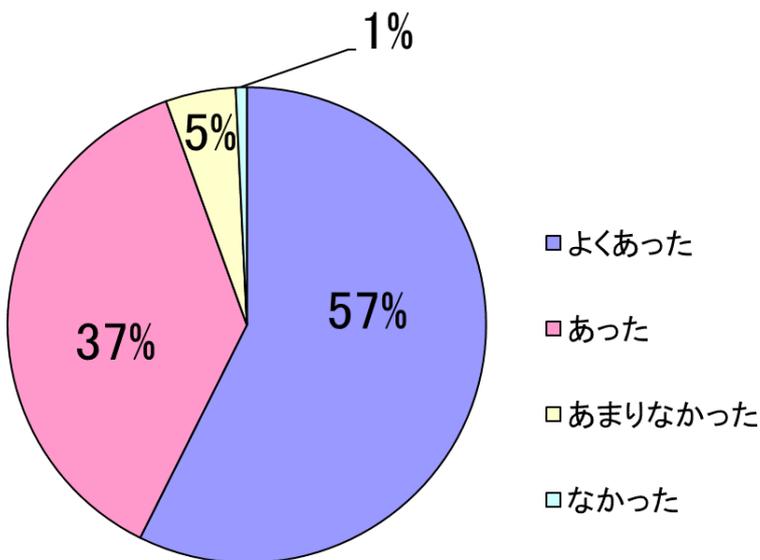
【令和5年度10月】

よくできた	40%	88%	←
できた	48%		

「よくできた」「できた」と回答した児童の合計は84%で、昨年度より4%減少した。

児童が自ら課題を設定し、その解決に向けた学習の進め方を児童自身が計画して進めていく「課題解決学習」を、各学年、各教科において研究・推進している。この学習過程の中で、児童がつまづいたり悩んだりした時に、教師が適切な指導・支援をすることで、次の課題への意欲や学習の質の向上につながると考える。引き続き、学級・学年担任が各教科の授業計画の研究を推進すると共に、授業力向上チームにおいても、校内研究や研修等を通して、教員の指導力向上を図っていく。

10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか。



10. 授業中、「わかった」「できた」という気持ちになることができましたか

【令和6年度10月】

よくあった	57%	94%	←
あった	37%		

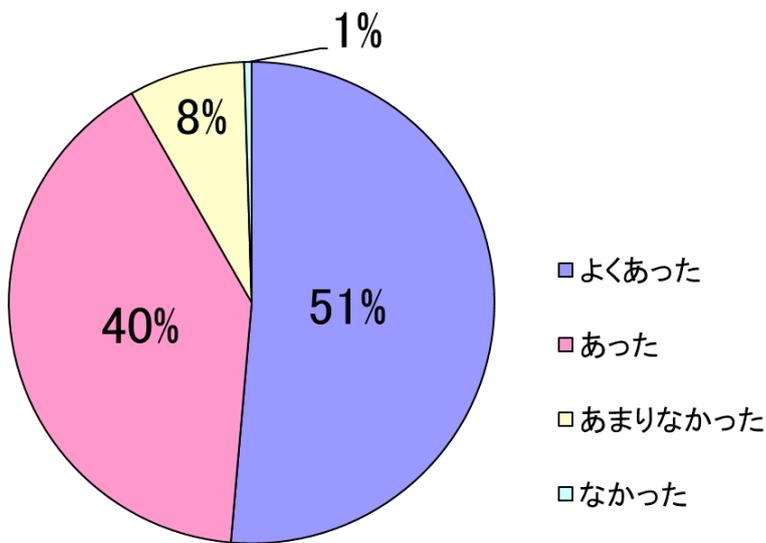
【令和5年度10月】

よくあった	62%	97%	←
あった	35%		

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は94%で、昨年度より3%減少したものの、とても多くの児童が学習時に「わかった」「できた」と感じていると読み取ることができる。校内研究等を通して、児童にとってより魅力的な学習となるように研究・研修を進めてきた一定の成果であると考えられることができる。

前項「自分の課題をもち、最後まであきらめずに」に通じることも多いが、学習の中で自ら課題をもち、その解決方法を自分で選んで学習を進めていく「課題解決学習」が、児童にも定着してきている。自分が知りたいこと、できるようになりたいことを課題として設定することで、その解決に向けて意欲をもって取り組むことができる。そのため、解決することができた時の「わかった」「できた」という思いを多くの児童が感じることができているのだと考える。今後も引き続き、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を大切にしていくために、課題解決学習の充実を図り、各教科における学習の進め方について研究・研修を深めていく。

11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。



11. 学校生活の中で、友達に「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言ったり、友達のよいところを見つけたりしたことはありましたか。

【令和6年度10月】

よくあった	51%	} 91%
あった	40%	

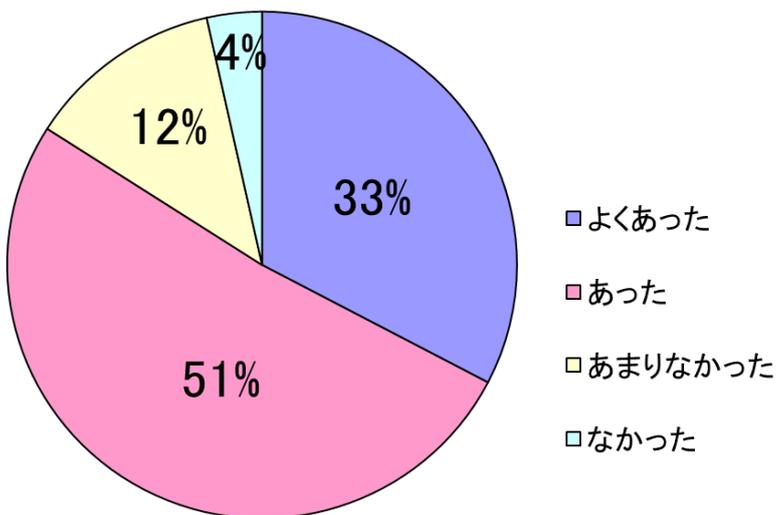
【令和5年度10月】

よくあった	52%	} 91%
あった	39%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は91%で、昨年度と同じ割合となった。友達ががんばっている様子や成長したところ、また、友達のよいところに、9割以上の児童が肯定的な言葉をかけたり、気付いたりしていることはとても喜ばしいことである。

児童が目標に向けて努力したり、挑戦したりしている姿に対して、まずは教師がいち早く気付き、肯定的な言葉をかけることで、児童間においてもそのような言葉がけが行われる雰囲気づくりに努めていきたい。また、道徳の学習や共生*共育プログラムなども活用して、児童が進んであたたかい学級、学年、学校を作っていく意識をもつことができるようにしていきたい。

12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたか。



12. 学校生活の中で、先生や友達から「すごいね」「がんばったね」「いいね」などと言われたり、認められたと感じたりすることはありましたかなどほめられたり認められたりすることがありますか。

【令和6年度10月】

よくあった	33%	} 86%
あった	51%	

【令和5年度10月】

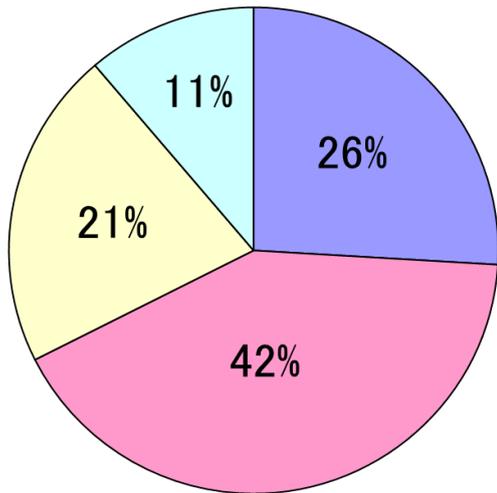
よくあった	39%	} 86%
あった	47%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は86%で、昨年度と同じ割合となった。一方で、「あまりなかった」「なかった」と回答した16%の児童をどのようにして肯定的な回答に引き上げるかは、今後の課題と言える。

前項と同じく、児童間で肯定的なやり取りが行われることを引き出すためには、まず教師が肯定的な雰囲気をつくることに努める必要がある。教育理念に掲げている「自己肯定感」を高めるためには、他者からの肯定や、自分が認められたり受け入れられたりする経験が必要不可欠である。

今後も、まず教師が積極的に児童に対して肯定的に接することで、学校全体があたたかい雰囲気を持続することができるように努めていく。

13. あなたは、自分のことが好きですか。



- 非常喜欢
- 好き
- あまり好きではない
- 好きではない

13. あなたは、自分のことが好きですか。

【令和6年度10月】

非常喜欢	26%	68%	1% down
好き	42%		

【令和5年度10月】

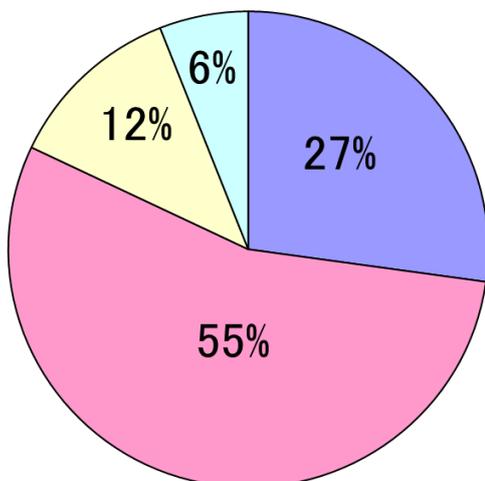
非常喜欢	26%	69%
好き	43%	

「非常喜欢」「好き」と回答した児童の合計は68%で、昨年度より1%減少した。また、最上位回答「非常喜欢」については、昨年度と同じく26%で、低い割合となっている。さらに、「あまり好きではない」「好きではない」と回答した児童の合計が32%いたことについて、今後この児童をどのようにして「自分のことが好き」と思えるようにしていくか、大きな課題となる。

「自分のことが好き」というのは、高学年になるにつれて照れくささが伴っていることも予想されるが、教育理念に「自己肯定感」を掲げているところで、昨年度から今年度にかけてのこの項目の結果については、改善していかなければならないと考える。

前項で述べた「肯定的な雰囲気づくり」に加えて、高学年においては、自分自身の力で課題を解決したり、挑戦したことを達成したりする経験を重ねることが、自己肯定感の向上につながると考える。学習場面における課題解決学習のさらなる充実を目指すと共に、係活動や委員会活動等においても、児童が自ら目標を設定してその達成に向けて努力し、充実感や達成感を味わえるような指導・支援の工夫に努めていく必要がある。

14. 学校生活の中で、自分が成長していると感じたり、みんなの役に立っていると感じたりすることがありましたか。



- よくあった
- あった
- あまりなかった
- なかった

14. 学校生活の中で自分が成長していると思うことがありますか。

【令和6年度10月】

よくあった	27%	82%	1% down
あった	55%		

【令和5年度10月】

よくあった	33%	83%
あった	50%	

「よくあった」「あった」と回答した児童の合計は82%で、昨年度より1%減少したものの、ほぼ同じ割合となった。

この項目についても前項と同じく、学校生活におけるさまざまな場面で児童が課題をもち、それを達成したり乗り越えたりすることで自信をもつことができ、さらにそれを自分自身の「成長」と感じることもできるのではないかと考える。また、学級・学年の活動や委員会活動などにおける活動に取り組む際、それがどういう役割を担っているのかを児童が理解しながら取り組むことが必要である。そのために、教師はプラスの言葉がけに加えて、活動の意義を伝えたり考えさせたりすることが必要である。